

復興支援フォーラムニュース No. 106

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)

<第104回ふくしま復興支援フォーラム>

広域避難の現状と課題

ふくしま連携復興センター 広域避難者支援チーム

佐藤 宏美

1、広域避難と支援の現状

(1) 県外避難者相談窓口「ふくしまの今とつながる相談室 toiro」(2014年5月開設)を通してみてきたこと

- 福島県内の情報が十分に届いていない。避難者が必要としている情報とは？
→避難元の情報、生活に根差した情報(水道水は安心できるか？外に洗濯物は干せるか？学校給食はどうなっている？通学路の線量は？など)
- 行政不信 ←震災後の報道等により、国や福島県からの情報は信じられない。
→避難先の支援団体や避難先自治体・避難先の社会福祉協議会などが頼れる存在。

(2) 全国的な避難状況と避難者支援の状況

- 関東圏に集中。
- 南宮城・北茨城(浜通りに近い地域)へ家を建てる等、再避難が増加。
- 西に行けば行くほど避難指示区域外からの避難者が多い。また、さらには関東からの避難者の割合が多くなっている。
- 避難先自治体による支援の温度差(自治体の抱える問題課題、担当者の熱意に左右される)。
- 平成29年度3月末住宅支援打ち切りにより、自治体による支援に格差大。
(2017.1.4 読売新聞/2017.1.6 毎日新聞に記事掲載)

(3) 本年度の取り組み「福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業」について

①実施の目的

県外避難者が一日も早く生活の再建に向かうことができるよう、全国各地の避難先の身近な場所に相談拠点を設置。

②実施内容

全国24か所に生活再建支援拠点を設置。避難者のより近いところで相談対応、交流会を開催。

③実施状況

避難者と信頼関係を築いている、これまで避難者支援を実施してきた団体を中心に選定。

○相談の状況

- ・住宅に関する相談が多数。
- ・東日本では避難指示区域内の避難者からの相談が多く、60～70代の相談が多数。男女比は半々。
- ・西日本では避難指示区域外の避難者からの相談が多く、30～40代の相談が多数。相談者は女性が多い。
- ・避難指示解除後についての相談も多い。賠償、家屋の処分、税金の支払い等、個別具体的な相談。→法律の専門家や避難元市町村役場につなぐしかない。
- ・片親で子どもに障がいがある・避難後不登校、単身高齢者、など難しいケースが各地でみられる。

○交流会の状況

- ・参加者を集めるのに苦戦。←避難者は交流会を求めている？
→交流会に来られる方は元気な方、いつもおなじみの顔。出てこられない方が心配。
→現在の生活に精いっぱい交流会に出てくる余裕はない。
→もう現在の生活に馴染んでいる。
※交流会のお知らせをする方法も団体によってバラバラ。
- ・避難先自治体からのお知らせの郵送。
- ・団体独自の名簿を使用。
- ・一部避難元自治体から郵送。
- ・毎月広報誌を発行。

2、課題

(1) 避難先自治体による支援の格差

《原因》

- ・過疎地域での定住移住政策
- ・抱える避難者数
- ・都市部の家賃相場、公営住宅入居希望者の数

(2) 避難元自治体ごとの対応（避難指示解除に伴って）

- ・解除時期の違いにより住宅支援の打ち切り時期の違い。
- ・同じ市町村内での区域内外。住所を詳しく聞かないとその避難者の状況がわからない。
→支援者への情報サポートが必要

(3) 相談対応（個別具体的な対応／片親・貧困・障がい・単身高齢者）

- ・避難がなくともみられる社会的弱者の問題。
→避難先自治体の負担大。←避難元自治体との連携必須。
- ・避難指示解除等による個別具体的な相談（家屋の売買、税金、賠償、除染について）。
→避難元市町村、もしくは国（直轄除染について等）でないと答えられない。

(4) 帰還者の不安

- ・「逃げた」という罪悪感。
- ・空白期間を経ての放射線への不安。
- ・故郷であるはずの福島での新しい生活。
→新しいコミュニティ形成への不安。

3、対策案

(1) 国・福島県・福島県内市町村 連携のモデルケース

(2) 避難先コミュニティのセイフティネット形成

(3) 避難先と福島をつなぐ取り組み

~~~~~

#### 第103回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

2016年12月6日に、福島市内A〇Zで、第103回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。千葉訓道さん（飯舘電力専務取締役）から「再生可能エネルギー事業の現場から～土湯温泉（地熱&小水力）／飯舘村（太陽光）発電事業の立ち上げ～」について報告をいただきました。

28人の参加者が熱心に質疑応答されましたが、会場で提出されたご意見・ご感想は、以下の通りです。参考にいただければ幸いです。

★ 非常に興味深く、貴重な体験のお話を聞けて、有意義でした。ありがとうございました。地方自治に携わる行政マンとして（耳の痛い話もありましたが（笑））、地域再生、活性化についても参考になる話で為になりました。（A.K）

★ たくみな話術に引き込まれました。（I.O）

★ 他では聴くことのできない内容を聴くことができ、参加してよかったです。実務的な話も聴くことができ、大変有用でした。（S.D）

★ 地産地消でエネルギーや水資源を確保し、それを基本に町づくり、地域づくりをすべきと思いました。／オーストラリア・ブリスベンのエコ・ハウス集落では、水は雨水、太陽エネルギーでまかっています。（M.T）

★ 分野外に果敢に飛び込み、自分は複雑なことが好きなんだと自らを励まし、達成にはラッキーなことが重なったからで、それは、こんなマインドに支えられていたこと、クールにお話される姿に感動しました。（S.Y）

★ 千葉さんのお話がおもしろく、楽しい時間を過ごしました。事業化の時に乗り越えなければならない3枚の壁……。私も実感しております。千葉さんの話しがもっともっと広がって、県や国が福島県を復興特区として扱い、許認可が簡単に出るようになることを希望します。（M.Y）

★ 初めの機器トラブルは、時間が過ぎていましたので、早めの説明が必要だったと思います。演者のエネルギーが、とても伝わってきました。福島の場合は、放射能というややこしい問題がありますが、復興に少しでもお役に立てているのが、よくわかりました。(K.C)

★ 土湯温泉の発電事業は比較的順調に軌道に乗ったとばかり思っていたのですが、苦勞の連続だったことがわかりました。具体的なエピソードが多く、あっという間に時間が過ぎました。「必死さ」が必要というのが、印象に残りました。(K.M)

★ 具体的な実践例で、大変興味ある内容でした。大正時代、土湯温泉で発電会社があった話には驚きました。その当時から、エネルギーを自給自足をしていた話は感動です。これからの実践に希望が感じられました。(Y.A)

★ 県内における再生可能エネルギー事業の実践的な取り組み事例を紹介していただきまして感謝申し上げます。(K.F)

★ とっても面白いお話でした。県内で、再エネに取り組む方々の気持ちが伝わってきました。もっと、その気持ちを市民に伝わるような、行動につながるような取り組みができればと思います。(H.S)

★ 今年度、高校生を対象に県内の再生可能エネルギーの取り組みについて考えるワークショップを実施しました。その際、元気アップつちゆや、飯館電力を知り、県内の再エネ事業が、民間の力でパワフルに展開されていることを改めて感じました。復興のパワフルな象徴として、全国から沢山の方が来ていただけるよう考えています。(J.S)

★ #103 フォーラム開催有難うございます。メールでも書かせて頂きましたが、#101 漁業（一次産業）、#102 学校（人づくりー町づくり）、#103 がエネルギーと、私職の考える「福島・東北の復興なくして日本の再生なし」を実現に近づける要素であり、意を得たりの感があります。その意味で、今回のエネルギー事業は、大変参考になりました。／3.11 復興ー日本再生の「キー」は、フォーラムニュース#103 にも記述させていただきましたが、①エネルギー「30年原発ゼロ、'50年脱石油、ガスの完全再生化・輸出にある」と思っております。エネルギーの完全再生化は、農業の再生にも繋がると思われますので、このフォーラムから、本格復興の3本柱の長期ビジョンをボトムアップで造り上げていきましょう。(T.S)

~~~~~

【予告】第105回ふくしま復興支援フォーラム 2017年1月31日（火）18:30~20:30

「311以後の映画 ~直後から現在まで。そして“5年後の作家たち”の時代」

報告者：阿部泰宏 氏（フォーラム福島支配人）

会場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1

MAXふくしま4F（福島市曾根田町1-18）

~~~~~

◆◆◆◆【会場個人カンパありがとうございました】◆◆◆◆

第103回ふくしま復興支援フォーラム(12月6日)の会場で、カンパ15650円をお寄せいただき、ありがとうございました。ご報告とともに、御礼申し上げます。(今野)